

第3学年 社会科学習指導案

- 1 単元名 学校のまわりはどんなようすだろう
～循誘公民館の利用者がふえるアイデアを考えよう～

2 単元について

- 循誘公民館は、循誘小学校の近くにある校区の公民館である。ここでは、20のサークルが行われたり、PTAの会議や通学合宿、夏休みのラジオ体操の場などに利用されたりしている。また、敷地内には児童公園があることから、校区の子どもたちの遊び場としても利用されている。

このような循誘公民館において、「心豊かな循誘の町作りをしたい」という館長の願いから、公民館利用者の目標を2万人とした。昨年度は1万8千人であったので、目標達成へ向け、利用しやすい公民館になるように職員一同努めている。

本単元では、公民館の働きを調べたことを基に、更に多くの人を利用してくれるような循誘公民館のアイデアを考えさせることで、地域に目を向けた考え方をさせ、地域に対する愛情を育てることをねらいとしている。

- 本学級の子どもに循誘公民館についてのアンケートを行ったところ、半数以上の子どもが一度は公民館を利用していることが分かった。利用内容としては、お楽しみ会やお話会に参加したり、保護者の話し合いに同伴したりすることが多い。しかし、公民館で行われているサークルや催し物を知る者は少なく、地域住民のつながりの場や生涯学習としての公民館の役割を知る子どもはほとんどいない。

4、5月に学校周辺のようすについて学習した。この学習で、商店や病院、昔の建物が多いという学校周辺の特徴をとらえることができた。

社会的な見方や考え方としては、3年生の7月という段階で、社会科の学習の経験が少ないため、いろいろな立場をとらえることは難しいため、これから計画的に指導していきたいと考える。

- 指導に当たっては、循誘公民館の利用者を増やすアイデアとして最もよい案を決定させることで、地域に目を向けた考え方をもたせたい。そのためにはまず、循誘公民館のよさを見付けたり、館長の願いを聞いたりすることで、循誘公民館の利用が増えるアイデアを考えるという学習問題を設定し、問題意識を高めさせる。次に、新しい公民館である本庄公民館のよさを写真で調べたり、保護者や地域の人、学校関係者に公民館に欲しいアイデアについてインタビューなどをしたりして、アイデアを出させる。その後、学級全体の話し合いによって絞り込まれた2案について比較・検討をし、「たくさんの人が利用できる（有効性）」「しあわせな気持ちになる（幸福）」の観点からアイデアを個人で決定させる。このことから、これからの循誘公民館の在り方を考えることを通して「これからの循誘の町」像を導かせる。

このように、地域の公共施設について考えさせていくことは、地域への見方や考え方を広げるだけでなく、地域への愛情を育てる上でも意義があると考えられる。

3 単元の総括目標

循誘公民館の利用者を増やすアイデアを考える学習を通して、公民館の取り組みや公共施設の役割について理解させ、地域の町作りの中心ともいえる公民館について考えさせる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
循誘公民館に関心をもち、進んで調べようとする。	公民館の利用者が増えるアイデアを「たくさんの人が利用できる（有効性）」「しあわせな気持ちにな	アイデアの理由（地域性、循誘公民館の特色、公民館への希望など）を調べることがで	公民館の働きや役割について理解している。

6	<p>絞り込まれたアイデアを検討し、利用が増えるアイデアを決めることで、自分の考えの見直しをする。</p> <p>【意思決定2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 価値判断を行わせるために、「たくさんの方が利用できる（有効性）」、「しあわせな気持ちになる（幸福）」の観点を意識させる。 ○ アイデアの比較や意見の交流を行わせ、それぞれの考えで大事にしていることや問題点を明確にさせる。 ○ 比較検討を振り返り「これからの循誘の町」像を導き出させ、これまでの自分の考えの見直しをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアの最終選択とその理由を書くことができる。 <p>【ワークシート】</p>	1 本時
---	---	--	---	---------

6 本時の目標

- 循誘公民館の利用者が増えるアイデアを比較・検討することで、「これからの循誘の町」像について判断することができる。 【社会的な思考・判断】

7 本時の展開（8／8）

学習活動	教師の指導・支援（○）と【評価】		
1 本時のめあてを確認する。	○ 既習したことを振り返り，本時の学習に意欲をもたせる。		
循誘公民館の利用者がふえるアイデアから「これからの循誘の町」を考えよう			
2 議論を行う。 ①アイデアの確認をする。 ②アイデアの比較・検討をする。 ・項目ごとに評価し，その理由を書く。	○ 2つのアイデアの概要を確認することで，アイデアの検討への意識を高めさせる。 2つのアイデアを比較する際，「たくさんの人が利用できる（有効性）」「しあわせな気持ちになる（幸福）の観点から，アイデアに評価を付けることで，比較を容易にさせる。		
<予想される児童の反応例>			
アイデア A 【公民館祭りをする】	かん点		アイデア B 【サークルをふやす】
・そのときだけしか集まらない	×	たくさんの人が利用できる	○
・みんなで遊ぶから楽しい ・コンサートをきくと心がゆっくりする	○	しあわせな気持ちになる	×
・「これからの循誘の町」像を考える。	○ アイデアのイメージをもたせるために，児童の経験や調べたことも発言させる。発言の中に立場になる言葉には着目させ，自分以外の立場をとらえさせたい。 ○ 2つのアイデアとも地域住民の参加が必要であることから児童自身にもかかわることを告げ，公民館の活動について考えることに責任をもたせたい。 ○ 評価とその理由を基に，「アイデアを行うことで『これからの循誘の町』はどうなってほしいか」という問いにより，目指す社会像を導かせる。その際，板書の言葉をキーワードとして考えさせる。		
3 アイデアを選択する。	○ 選択は個人で行わせる。理由付けをさせることで，自分の判断を明確にさせる。 【評価】		
4 本時のまとめをする	○ これまでの学習を循誘公民館に知らせることを伝える。		

8 本時の評価

評価規準	「これからの循誘の町」像についての判断として、アイデアの選択ができる。 【社会的な思考・判断】		
評価の基準 →支援	A	B	C
	複数の立場や価値を理由の中に書くことができる。	アイデアを選択し、理由付けができる。 → 立場や価値について板書を基に示唆する。	Bに達していないもの (例) アイデアの選択はしているが、理由を書いていない。 → 家族にとってのアイデアを、板書を基に考えさせる。
評価方法	ワークシート		